

2021年3月1日 改訂

水と光のまちづくり推進に関する基本方針（案） ～「水と光の首都大阪」の実現に向けて～

大阪では、2001年の「都市再生プロジェクト」採択以降、行政・企業・市民が連携し、「『水都大阪』の再生」に取り組んできた。その結果、都心部の河川に遊歩道や船着場が整備され、それらを活かしたクルーズや規制緩和を活用した水辺の民間ビジネスが生まれるなど、大阪はトップランナーとして、常にわが国の水都づくりをけん引し、さらなる都市ブランド向上に向けて取り組んできたところである。

また、公民が協力して進めた護岸・橋梁・高速道路橋脚の日常的なライトアップや、冬の風物詩として定着した「大阪・光の饗宴」など、大阪は日本でも有数の美しい光景観を楽しめる都市ともなった。

我々は、2025年の大阪・関西万博及びさらにその先に向けて、魅力溢れる「水と光の首都大阪」を実現し、その結果、世界の都市間競争のなかで、域外から人を惹きつけ企業や新たな投資の呼び込みにつなげることで、大阪の持続的な成長を推進するため、以下の方針を掲げ、オール大阪で取り組む。

◆世界に誇る「水と光のシンボル空間」の実現

大阪城から中之島、大阪湾までをつなぐ「東西軸」と都心部をロの字に流れる「水の回廊」を中心に、船が行き交い、人々が水辺で集い憩う、他都市に類を見ない水都大阪の修景づくりを進める。また、御堂筋や中之島を光で彩るとともに、民間主体の光のプログラムとも連携し、圧倒的な光景観を創出する。

こうした取り組みを通じて、世界に誇る「水と光のシンボル空間」を実現する。

◆水と光の広がりや厚みによる新たな魅力創造

多彩な民間の知恵を最大限活かした「水の回廊」とベイエリアとの連携、「大阪・光の饗宴」における地域連携の強化などによって、「水」と「光」の魅力大阪のまち全体への魅力に広げるとともに、文化・スポーツ・グルメ・イベント等との連携によるナイトカルチャーや観光メニューの創出などによって新たな魅力を創造する。また、淀川から2025年大阪・関西万博会場へのアクセス向上に公民連携で取り組む。

◆誰もが憧れる「水と光の首都大阪」ブランドの確立

大阪を訪れる人々に感動を提供するとともに、多様な主体が連携し、大阪の「水」と「光」の魅力戦略的・効果的に国内外に発信することで、世界の誰もが憧れ、大阪の人々が誇りにできる「水と光の首都大阪」ブランドを確立する。

◆多彩な「民」の参画とビジネスの創出・活性化

「水」と「光」を活かした都市魅力創造の好循環の実現に向けて、公民の役割分担と強い連携のもと、これまでの取り組みの成果を踏まえ、水都大阪の持続可能な成長をめざす公民共通のプラットフォーム「水都大阪コンソーシアム」によるコーディネート機能や、「大阪・光の饗宴」の開催による魅力づくり等を通じて、企業やクリエイティブな人材等の多彩な「民」や学、地域、市民の参画を促し、新たなビジネスの創出・活性化やまちづくり活動の促進を図る。

以上